

ビジネススクールは体力勝負だ！

ミシガン大学のビジネススクール

今井雅和



本場のビジネススクールとは？
 どのような内容の授業で、試験の問題は？
 ミシガン大学へ研究留学中の著者が、現地の最新情報をレポート。

私は、現在ミシガン大学に研究留学中ですが、研究のかたわら、授業にも出席していますので、本場のビジネススクールの最新情報をお届けします。といっても、紙幅に限りがありますので、私の出席していた「経営戦略論」の期末試験の様子を中心に報告します。これはMBA1年生の必修科目で、週2コマ、秋学期前半だけのコースです。授業は、事例研究が中心で、少人数クラスでの討論にほとんどの時間が費やされます。学生は実務経験のある30歳前後の人たちが中心ですので、議論が実践的で、とても刺激的なものです。試験時間は4時間の長丁場で、

まさに体力勝負です。ただし、外国人には言葉のハンディがあるため、試験開始の2時間前に問題が手渡されます。というのも、20ページ程度の事例ストーリーを読んで質問に答えなければならぬからです。昨年の場合、欧州自動車メーカー間の提携についての事例を読んで、(1)現状分析を行ない、(2)外部環境の提携へのインパクトを分析し、(3)同社に対して戦略を提言するというものでした。見てのとおり、受験勉強と違って、「正しい解答」のない問題ですから、授業中に学んだ理論や分析手法を用いて、いかに論理的で、説得力のある提言ができるかという



今井 雅和 (いまい まさかず)
 経済学部助教授。専攻は国際ビジネス論、移行経済ビジネス論。民間企業で海外営業、海外広報、国際事業管理を担当したのち、本学に赴任。国際経営論、多国籍企業論などを担当。現在、米国ミシガン大学ビジネススクールLWD研究所にて、移行経済国におけるビジネス環境と進出企業の経営戦略について研究中。2003年8月帰国予定。

いかに論理的で、説得力のある提言ができるかということがカギとなります。

ことがカギとなります。知識や技術の習得は必要ですが、それだけでは不十分であり、論理性と人を動かす説得力を身につけることが、いかに重要であるか、ご理解戴けると思います。皆さんの、学生生活のゴール設定の参考にしてほしいと思います。

こちらはIT関連の設備がとり

わけ充実しており、ビジネススクール内はワイヤレスのネットワーク環境が整っています。授業中もノートではなく、パソコンでメモを取る学生もいますし、メールのチェックやインターネットにアクセスしている学生もいます。試験は、本も、ノートも、パソコンも何でも持ち込み可の試験です。したがって、試験中に学生同士がメールで会話することも、他の教授に質問することも技術的には可能ですが、「それはダメだ」とのことでした。試験内容を考慮すれば、そうした誘因が働かないことは容易に想像できます。

活発な議論が展開されているのは、何もMBAのクラスに限りません。学部の授業でも、教員が学生の挙手に応じきれないほどです。こうした経験を、今後の授業に生かし、厳しいがエキサイティングなクラスを目指したいと思います。ただし、いくつかマネをしてほしくないことがあります。それは、(1)授業中の飲食、(2)授業中の着帽、(3)なんでも持ち込み可の試験です。(3)は私というよりは、みなさんが困るだろうと考えるからです。